
 ニュース

日本の火山活動概況（2013年7月～8月）

気象庁

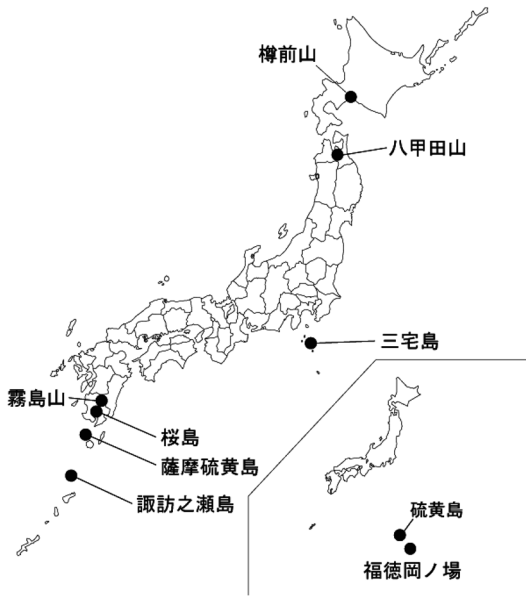


図 1. 2013年7月～8月に目立った活動があった火山

樽前山 ($42^{\circ} 41' 26''\text{N}$, $141^{\circ} 22' 36''\text{E}$)

6月下旬から7月上旬にかけて、傾斜計で山体西側の深さ数kmでの膨張を示す変化を観測し、その直後から地震活動が活発化した。7月上旬から山体西側の深さ3～5kmを震源とする地震活動が始まり、中旬以降活発化したが、8月に入り徐々に低下しつつある。一方、山頂溶岩ドーム直下の地震は、6月下旬から7月上旬にかけて一時的に増加したが、その後は低調に経過している。火山性微動は観測されなかった。山頂溶岩ドーム付近の地殻変動に特段の変化は認められない。

噴気活動は低調に経過した。8月22日夜間にB噴気孔群でごく小規模な高感度カメラで明るく見える現象を観測した。この現象は、高温ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定され、2010年以降しばしば観測されている。

八甲田山 ($40^{\circ} 39' 32''\text{N}$, $140^{\circ} 52' 38''\text{E}$)

東北地方太平洋沖地震（2011年3月11日）以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加した状態で経過してい

る。また、2013年2月以降、山頂付近が震源と考えられる火山性地震が散発的に発生し、4月下旬以降、やや多い状況で経過している。

8月7日と8日に実施した現地調査及び8月22日に青森県の協力により実施した上空からの観測では、赤岳・井戸岳・大岳の山頂付近及び周辺に特段の異常は認められなかった。また、地獄沼周辺では噴気や高温域がみられたものの、前回の調査（1994年8月）と比較して特段の変化は認められなかった。

山体周辺の地殻変動観測では2013年2月頃以降、小さな膨張性の地殻変動が認められる。

噴気等の表面現象に変化は認められない。

三宅島 ($34^{\circ} 05' 37''\text{N}$, $139^{\circ} 31' 34''\text{E}$)

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年2月以降はやや少量となっている。今期間に実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり400～1,000トンであった。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は概ね少ない状態で経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

GPS連続観測によると、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。一方、島の南北を挟む長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

硫黄島 ($24^{\circ} 45' 02''\text{N}$, $141^{\circ} 17' 21''\text{E}$ (摺鉢山))

島西部の旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）では、昨年（2012年）2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震は概ね少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。国土地理院の地殻変動観測では、沈降・停滞・隆起を経て、2013年4月頃からほぼ停滞していたが、5月頃から隆起の傾向が見られている。

海上自衛隊の協力により、8月20日から23日にかけて以下の地域で現地調査を実施した。

『為八海岸（島北部）の状況』

為八海岸付近では、昨年（2012年5月、8月）及び前回（2013年1月）の調査で、噴気や沿岸部での変色水及び湧昇を確認していたが、今回の調査では何れも認められなかった。

『阿蘇台陥没孔の状況』

阿蘇台陥没孔の水位は、前回（2013年1月）の調査と比べ高い状況で、噴気の高さは20～30mであった。阿蘇台陥没孔北側の断層面及び高温域の地中温度は前回の調査と大きな変化は認められなかった。

『旧噴火口（通称：ミリオンダラーホール）の状況』

2013年4月11日に発生した小規模な水蒸気爆発により、それ以前に確認されていた3つの噴出孔がほぼ一体化しており、ミリオンダラーホール北側には泥水が溜まっていた。また、ミリオンダラーホールの周囲は噴出したと思われる泥が堆積しており、周囲の樹木は枯れていた。ミリオンダラーホール北側内壁に高温域を確認した。

『北の鼻（島北部）の沖合の状況』

21日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、北の鼻の北東沖合で乳白色の変色水が観測された。また、28日及び30日に海上自衛隊が実施した上空からの観測では、北の鼻の北沖で変色水が観測された。

『その他の地域の状況』

摺鉢山、井戸ヶ浜、離岸温泉跡、金剛岩、東山噴気・地熱地帯、硫黄ヶ丘、北飛行場及び翁浜などその他の地域では、噴気や地熱、地形等の状況は、前回（2013年1月）までの現地調査と比べて特段の変化は認められなかった。

福德岡ノ場（24° 17′ 05″ N, 141° 28′ 52″ E）

7月17日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる変色水、軽石等の浮流物は認められなかった。

8月21日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、福德岡ノ場の海面に火山活動によるとみられる薄い変色水を確認した。

8月24日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる変色水、軽石等の浮流物は認められなかった。

福德岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

霧島山（新燃岳）（31° 54′ 34″ N, 130° 53′ 11″ E（新燃岳））

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。噴煙活動に特段の変化はなく、火山性地震も少ない状態で経過した。火山性微動は2012年3月以降観測されていない。地殻変動観測に特段の変化は認められなかった。

桜島（31° 34′ 38″ N, 130° 39′ 32″ E（南岳））

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は、7月が128回（そのうち爆発的噴火は83回）、8月が144回（そのうち爆発的噴火は118回）であった。8月18日16時31分に発生した爆発的噴火では、多量の噴煙が火口縁上5,000mまで上がり、北西に流れた。鹿児島市内から薩摩川内市甕島にかけての広範囲で降灰があり、鹿児島市内では多量の降灰により、公共交通機関が一時運転を見合わせるなどの影響が出た。この噴火に伴い小規模な火砕流が発生し、昭和火口の南東約1kmまで流下した。8月29日09時27分に発生した爆発的噴火では、多量の噴煙が火口縁上3,000mまで上がり、東北東に流れた。この噴火に伴い桜島島内から宮崎市にかけて降灰があり、鹿児島市黒神町（昭和火口から東約4km）で、約1cmの小さな噴石（火山れき）が降下した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、噴火の発生はなかった。

火山性地震の月回数は少ない状態で経過し、噴火に伴い火山性微動が発生した。今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり1,400～2,200トンと概ね多い状態であった。GPS連続観測では2013年2月頃から桜島島内の膨張の傾向が見られていたが、7月ごろから停滞またはわずかな縮みの傾向がみられる。また、国土地理院の地殻変動観測結果によると、鹿児島（錦江）湾を挟む一部の基線では、長期的な伸びの傾向が続いていたが、6月頃から停滞気味である。鹿児島地方気象台における降灰量は、月合計で7月が2g/m²、8月が59g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、6月が約10万トン、7月が約70万トンであった。

薩摩硫黄島（30° 47′ 35″ N, 130° 18′ 19″ E（硫黄岳））

6月3日から5日にかけて、硫黄岳でごく小規模な噴火が時々発生したが、6月6日以降、噴火は観測されていない。火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。7月9日に実施した現地調査でも硫黄岳の噴気地帯の一部に高温域が認められる程度であった。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を、7月18日と8月5日に観測した。

諏訪之瀬島（29° 38′ 18″ N, 129° 42′ 50″ E（御岳））

御岳火口で、8月25日19時04分に噴火が発生し、26日以降、爆発的噴火が断続的に発生するなど、噴火活動は活発に経過した。期間中、爆発的噴火は16回発生し

た。噴火に伴う灰白色の噴煙は概ね火口縁上 500～800 m で経過し、最大で 1,500 m まで上がった。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測した。

7 月 29 日に諏訪之瀬島付近を震源とするマグニチュード 3.2 の地震が発生し、十島村諏訪之瀬島で震度 2 を観測した。この地震の前後で、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。火山性微動が断続的

に発生した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責：気象庁地震火山部火山課 末峯宏一)

日本の火山活動概況 (2013 年 9 月～10 月)

気 象 庁

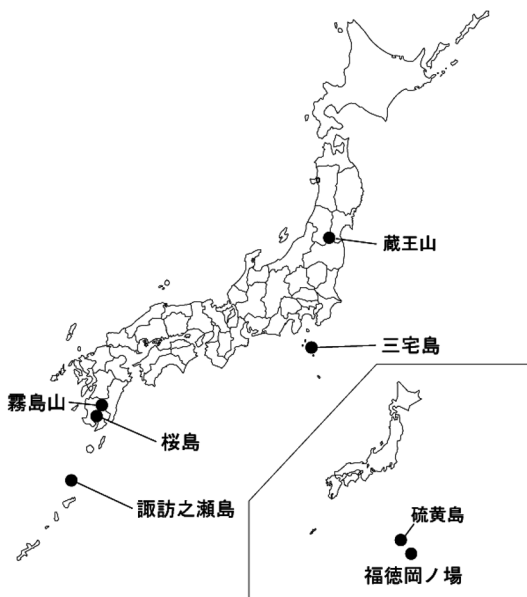


図 1. 2013 年 9 月～10 月に目立った活動があった火山

蔵王山 (38° 08' 37" N, 140° 26' 24" E)

10 月 19 日と 23 日に火山性微動が各 1 回発生した。19 日の火山性微動の発生直前に、これまでみられていたような傾斜計データのわずかな変化が認められた。微動の発生前後で、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。10 月下旬に火山性地震が一時的に増加し、月合計で 52 回発生した。

三宅島 (34° 05' 37" N, 139° 31' 34" E)

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年

2 月以降はやや少量となっている。三宅村によると、山麓ではまれにやや高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

火山性地震は概ね少ない状態で経過した。震源は山頂火口直下に分布しており、これまでと比べて特段の変化は認められなかった。火山性微動は観測されなかった。

GPS 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞している。一方、島の南北を挟む長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨脹を示す地殻変動が継続している。

9 月 2 日に陸上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、火口内に引き続き高温領域が認められたが、前回の観測 (2013 年 2 月 20 日) と比べその状況に特段の変化は認められなかった。

硫黄島 (24° 45' 02" N, 141° 17' 21" E (摺鉢山))

島西部の旧噴火口 (通称：ミリオンダラーホール) では、昨年 (2012 年) 2 月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

火山性地震はやや少ない状態で経過した。振幅の小さい火山性微動が時々発生したが、微動の発生の前後で、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。国土地理院の地殻変動観測では、2013 年 5 月頃から隆起の傾向がみられていたが、9 月頃からほぼ停滞している。

福德岡ノ場 (24° 17' 05" N, 141° 28' 52" E)

9 月 27 日に海上自衛隊が実施した上空からの観測では、福德岡ノ場の半径 450 m の範囲に緑色の変色水と白い泡の噴出を確認した。

福德岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生している。

霧島山(新燃岳) (31° 54' 34" N, 130° 53' 11" E (新燃岳))

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。噴煙活動に特段の変化はなく、火山性地震も少ない状態で経過した。火山性微動は2012年3月以降観測されていない。地殻変動観測に特段の変化は認められなかった。

10月1日に海上自衛隊の協力を得て上空からの観測を実施した。前回(5月21日)と比較して、噴気や火口内に蓄積された溶岩の形状や大きさ、地表面温度分布に特段の変化は認められなかった。

桜島 (31° 34' 38" N, 130° 39' 32" E (南岳))

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は、9月が154回(そのうち爆発的噴火は110回)、10月が127回(そのうち爆発的噴火は87回)であった。噴煙の最高高度は、9月26日10時18分、10月21日10時35分に発生した噴火による火口縁上4,500mであった。9月4日11時00分に発生した爆発的噴火では、鹿児島市古里町から有村町にかけての範囲(昭和火口の南約3km)で最大約4cmの、垂水市中俣地区(昭和火口南南東約8km)では約1.5cmの小さな噴石(火山れき)が降下し、車のガラスが割れる等の被害が発生した。9月25日12時42分に発生した爆発的噴火でも、鹿児島市有村町に最大約2cmの小さな噴石(火山れき)が降下し、同様の被害が発生した。9月6日16時23分、10月3日17時47分、4日12時02分及び20日23時14分の噴火では、火口周辺にとどまる程度のごく小規模な火砕流が発生し、それぞれ火口から約300m流下した。同火口では、夜間に高感度カメラで明瞭に見える火映を時々観測した。

南岳山頂火口では、噴火の発生はなかった。

火山性地震の月回数は少ない状態で経過し、噴火に伴い火山性微動が発生した。今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり900~2,900トンと概ね多い状態であった。GPS連続観測では2013年2月頃から桜島島内の膨張の傾向が見られていたが、7月ごろから停滞またはわずかな縮みの傾向がみられる。また、国土地理院の地殻変動観測結果によると、鹿児島(錦江)湾を挟む一部の基線では、長期的な伸びの傾向が続いていたが、6月頃から停滞気味である。鹿児島地方気象台における降灰量は、月合計で9月が906g/m²、10月が720g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、8月が約70万トン、9月が80万トンであった。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口で、9月は断続的に噴火が発生し、爆発的噴

火が9回発生した。9月29日に発生した爆発的噴火では、火口付近に飛散する噴石を確認した。10月も13日から15日と21日から22日にかけて、ごく小規模な噴火が発生する等噴火活動は活発に経過した。今期間、噴煙は概ね火口縁上1,000m以下で経過し、最高高度は火口縁上1,400mであった。

9月10日、21日、26日及び10月9日に諏訪之瀬島付近を震源とする地震により、十島村諏訪之瀬島で震度2~1を観測した。火山性微動が断続的に発生した。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホームページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

(文責: 気象庁地震火山部火山課 末峯宏一)

○人事公募

【機関名: 伊豆半島ジオパーク推進協議会】

ジオパーク専任研究員(地球科学または地理分野)の公募 <http://izugeopark.org/>

業務内容: 伊豆半島ジオパークを推進するための全般的な業務。

- ・ジオパークの普及啓発に係る業務
- ・伊豆半島の地球科学的分野に関するアウトリーチ(解説看板等製作、ガイド育成、教育活動など)。
- ・ジオパークの管理、保全に係る業務
- ・ジオパークを通じた地域振興に係る業務

勤務形態: 常勤(任期あり)単年度契約。再任ありで年度ごとに契約見直し。

勤務地: 静岡県伊東市大原2-1-1(伊東市役所内)

募集人数: 1名

募集期間: 2013年09月13日まで

着任時期: 採用決定後のできるだけ早い時期(応相談)

待遇: 週休2日

給与は同年齢の静岡県伊東市役所職員の平均年収(賞与除く)をもとに算出

住居、時間外手当、通勤手当を含み

各種社会保険(健康保険、厚生年金保険、労災保険、雇用保険)を適用

詳細は募集要項または以下のサイトをご確認ください。
http://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=1&id=D113080834&ln_jor=0

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月2日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：教授又は准教授 若干名
2. 期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日（1 年間）
3. 申込資格：国立大学法人・公・私立大学及び国，公立研究機関の教授もしくは准教授又はこれに準ずる研究者
4. 研究分野：地震・火山および関連諸分野の研究
5. 公募締切：平成 25 年 10 月 31 日（木）【必着】
6. 提出書類：○応募用紙（様式 1）1 部
○履歴書（様式 2）1 部
○研究計画に関連した業績リスト（必ずタイプすること）
出来れば参考となる主要論文の別刷 1 部
なお，応募に際しては必ず所属機関長の承諾を得ること。
7. 応募先：〒113-0032
東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学地震研究所 研究支援チーム（共同利用担当）
TEL：03-5841-5710, 1769
※応募に関するお問い合わせは上記へお願いします。
8. 注意事項：客員教員応募書類在中の旨を記し，簡易書留で送付すること。
9. 選考方法：本研究所共同利用委員会が決定する。
10. 採否の決定：客員教員の採否は，本研究所共同利用委員会が決定します。
採否の決定は，平成 26 年 3 月下旬までに行われ，結果を書面により通知します。
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 5 日送信しました）

【海洋研究開発機構・地球内部ダイナミクス領域】

- 募集職種 任期制職員
募集対象分野 地球内部ダイナミクスの統一像の構築とその基礎過程の研究
- 募集内容 海洋研究開発機構では平成 26 年度からの第 3 期中期計画を実施するに当たり，対象の研究分野に従事する任期制職員（研究職，技術研究職，技術総合職，ポストドクトラル研究員）を約 15 名公募いたします。
- 業務内容 【研究分野】
地球内部ダイナミクスの統一像の構築とその基礎過程に係る以下の研究
プレートダイナミクスに関する研究：
プレート活動研究では，海洋研究開発機構の持つ大型観測機器や海底観測ネットワークを用いた海域地球

物理・地質調査観測に基づき，海溝域地震・津波発生帯の構造と変動現象の解明，及び，海洋リソスフェア，海洋性島弧，巨大海台の形成過程の解明を進めます。
数理科学に関する研究：

地球を巨大な非平衡系と捉え，内部物質の移動やそれに伴うパターン形成などの非線形現象に内在する数理を明らかにし，シミュレーションによる予測研究を行います。

地球深部ダイナミクスに関する研究：

海域を重視した観測調査に基づき，地球深部にわたる構造・組成とその変動に係る地球物理学，シミュレーション研究を行い，地球内部ダイナミクスや地球表層と深部の連関の理解を目指しています。

地球内部物質循環に関する研究：

固体地球内部の物質循環及び物質進化について，それらを構成する岩石の岩石学的・地球化学的分析と，物理化学・岩石学的モデリングによる解析を行い，地球内部ダイナミクス像の構築を目指します。

研究分野の詳細につきましては，ウェブページ <http://www.jamstec.go.jp/ifree/j/> をご参照ください。

応募締め切り

平成 25 年 11 月 8 日（金）必着

公募ウェブサイト

<http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/ifree20131108.html>
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 27 日送信しました）

【静岡大学大学院理学研究科地球科学専攻】

〈募集人員〉

講師または助教〔任期なし〕・1 名

〈所属学科〉

大学院理学研究科地球科学専攻

〈着任時期〉

平成 26 年 4 月 1 日以降のできるだけ早い時期

〈専門分野〉

地球科学（本学科の構成員と共同研究できる分野）

〈応募資格〉

1. 博士の学位を有すること
 2. 専門教育，共通教育において，地球科学の講義，実験，実習，演習等を担当できる能力を有し，また学生の教育研究指導に熱意のある方
- ※静岡大学では男女共同参画や女性教員・外国人教員の採用を推進しており，女性・外国人研究者の積極的な応募を歓迎します。

〈応募書類〉

- 1) 履歴書（研究に関連した受賞歴，外部資金の獲得

状況, および専門分野を表すキーワード3つを含むこと)

- 2) これまでの研究・教育活動 (2000 字程度)
- 3) 研究業績目録
 - A) 査読のある論文および総説 (欧文, 和文を分ける)
 - B) その他の論文および総説 (欧文, 和文を分ける)
 - C) 著書
 - D) その他審査の参考になる事項 (任意)
- 4) 主要論文の別刷り (5 編以内) およびそれらの論文概要 (日本語各 200 字程度)
- 5) 今後の研究および教育の計画と抱負 (2000 字程度)
- 6) 応募者について意見を伺える方 2 名の氏名および連絡先

〈面接〉

選考段階で, 面接または講演をお願いすることがあります。ただし旅費の支給はありません。

〈応募締切〉

平成 25 年 11 月 22 日 (金) 必着

〈書類の送付先および問い合わせ先〉

「地球科学教員応募」と朱書きし, 送付履歴の残る方法でお送りください。なお, 応募書類は返却いたしません。

宛先: 〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836

静岡大学大学院理学研究科地球科学専攻
専攻長 塚越 哲

問い合わせ: 電話 054-238-4800

ファックス 054-238-0491

電子メール satukag@ipc.shizuoka.ac.jp

〈参考〉

本学科の講座・構成員については, 下記 HP をご参照ください

<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/~geo/geo.html>

<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/~geo/Kohbo2013Oct.pdf>

〈<http://www.sci.shizuoka.ac.jp/%7Egeo/Kohbo2013Oct.pdf>〉

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 18 日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 職種: 特任研究員 (特定短時間勤務有期雇用教職員 (非常勤))
2. 研究テーマ: 以下の 5 テーマ (順不同) を対象とする。
 - (1) 地殻・マントル岩石の可観測物性測定 (平賀岳彦)
 - (2) 火山噴火モデルパラメータのインバージョン解析手法開発 (小屋口剛博)

- (3) 高エネルギー素粒子地球物理学研究センターの 3 つの中心課題のいずれか (大久保修平・田中宏幸)

(a) 原子核乾板でありながら時間変動を追えるミュオンカメラの開発

(b) ニュートリノを用いた地球内部構造研究への参画

(c) 素粒子検出エレクトロニクス技術を用いた, 低雑音ミュオン望遠鏡の開発

- (4) 不均質媒質中の動的破壊現象の力学解析 (亀伸樹)

- (5) 南海トラフ域の浅部及び深部超低周波地震に関する研究 (小原一成)

3. 募集人員: 若干名

4. 応募資格: 着任時に博士の学位を有する者。

応募前に各テーマの担当教員に連絡し, よく相談すること。

5. 採用予定時期: 2014 年 4 月 1 日以降の着任可能な日

6. 任期・再任: 任期は着任日から 2015 年 3 月 31 日まで。再任は 1 回のみ。

7. 待遇: 東京大学特定短時間勤務有期雇用教職員の就業に関する規程の定めるところによる。

勤務時間は週 35 時間。

8. 選考方法: 原則として書類選考。ただし面接を行うこともある。

9. 提出書類:

・履歴書 (市販用紙, 東京大学統一様式 http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html でも可)

・研究業績リスト (査読の有無に分類)

・主要論文の別刷り 3 編 (学位論文は要旨のみ), コピーも可

・研究歴 (A4 用紙 2 枚以内)

・採用後の研究計画 (A4 用紙 2 枚以内), 研究テーマ (上記 2) を明記のこと。

・応募者について意見を伺える方 1~2 名の氏名及び連絡先

10. 応募締切: 2013 年 11 月 29 日 (金) 必着

11. 提出書類送付先:

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所庶務チーム (人事)

電話 03-5841-5668

注意: 封筒表に「特任研究員応募書類在中」と朱書きの上, 書留にて郵送のこと

12. 問い合わせ先:

(公募全般について) 東京大学地震研究所物質科学系研究部門 中井俊一

電話：03-5841-5698

電子メール：snakai@eri.u-tokyo.ac.jp

(各テーマについて)各担当教員(連絡先などの問合せは上記中井まで)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月18日送信しました)

【独立行政法人日本原子力研究開発機構】

職名・人員：特定課題推進員・3名

専門分野：

- (1) 地質調査及びテフラ、微化石、古地磁気等による年代層序学
- (2) 岩石学・同位体地球化学
- (3) ウラン系列の放射年代学及び誘導結合プラズマ質量分析(ICP-MS)

公募締切日：平成25年11月15日(金)必着

詳細：<http://www.jaea.go.jp/saiyou/employment/employment351.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月25日送信しました)

【東京大学地震研究所】

- 1. 募集職種：技術職員1名
- 2. 勤務場所：東京都文京区弥生1-1-1 東京大学地震研究所
- 3. 職務内容：

本件で求める技術職員の主たる業務は、地震研究所で行われる岩石・鉱物物性に関する実験を主とした研究教育活動の支援を行うことです。具体的な職務内容は、以下の通りです。

- 1) 実験設備(力学試験機、高温高压実験装置、実験用PC等)の維持・管理・運転
- 2) 実験試料(岩石、合成試料、他)の作成・分析
- 3) 実験データの処理
- 4) 装置開発の支援

岩石などの物性に興味をもち、実験・計測・データ処理・試料作成の技術の向上に意欲を持って取り組む人を望みます。

これらの業務に応用できる経験や技術を持つ人は、その専門を問いません。

- 4. 応募資格：

4年制大学理工系学部卒業以上。

2年程度以上、上記の実験業務に応用できる職務経験(大学院等における研究歴を含む)を有することが望ましい。

平成26年3月修士課程修了見込みの方の応募も歓迎

します。

※ただし、次の者は応募できません。

- 1) 成年被後見人及び被保佐人(準禁治産者を含む)
- 2) 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終えるまでの者、又はその刑の執行猶予の期間中の者、その他その執行を受けることがなくなるまでの者
- 3) 懲戒解雇又はこれに相当する処分を受けたことのある者で、その処分の日から2年を経過していない者
- 4) 日本国内における活動に制限のない在留資格を有しない者
- 5. 応募期限：平成25年12月25日(水)正午必着
- 6. 採用予定時期：平成26年4月1日
- 7. 応募書類：

- 1) 履歴書(東京大学統一履歴書フォーマット)

下記URLよりダウンロードしてください。

URL：http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html

東京大学HP>研究者・職員公募>東京大学統一履歴書フォーマット

- 2) 小論文(書式自由)
本公募に応募した理由2,000字以内
- 3) 職務経歴書(書式自由)
経歴ごとに企業や大学院等の職務・研究内容を具体的に記述
*連絡に使用しますので、連絡用メールアドレスを必ず記入してください。

- 8. 選考方法等：

小論文及び職務経歴書等にもとづく書類選考、及び面接選考により決定します。

第一次面接試験日時等は書類選考後、1月8日以降に合格者へ個別連絡しますが、下記の日程を予定しています。

- 1) 第一次面接試験：平成26年1月11日(土)
- 2) 第二次面接試験：平成26年1月20日(月)

※適任者がいない場合、決定を保留します。

- 9. 勤務条件等

下記URLを参照してください。

URL：http://www.u-tokyo.ac.jp/recruit/info/kinmu_j.html

東京大学HP>研究者・職員公募>東京大学職員採用試験・国立大学法人等職員採用試験>働く環境>勤務条件・福利厚生

- 10. 応募書類提出先及び問合せ先

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所庶務チーム(人事)

電話：03-5841-5668 E-mail：jinji@eri.u-tokyo.ac.jp

応募書類は封筒に【技術職員(実験系)応募】と朱

書し、書類提出先まで送付して下さい。

原則として、応募書類は返却いたしませんので、予めご了承ください。

11. 地震研究所の説明

URL : <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/laboratory/history.html>

12. 地震研究所技術部の職員からメッセージ

URL : <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/recruit/message/syoukai.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月18日送信しました)

【東京大学地震研究所】

1. 募集職種：技術職員 1 名

2. 勤務場所：東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所

3. 職務内容：本件で求める技術職員の職務内容は下記の通りです。

地震や地殻変動などの地球物理現象を観測するため、野外で観測機器の設置、調整などを行うことが主たる業務です。作業場所には、火山や海域(船上)が含まれます。さらに、様々な機器を用いた観測だけでなく、取得した観測データの基本的な処理・解析、古記録を含む地震記録の整理およびアーカイブの構築と公開、観測機器等の管理、既存の観測施設の点検・保守も業務に含まれます。地震や火山噴火現象に興味を持ち、その解明に熱意をもつ人、観測・データ処理・データ解析等の技術の向上に意欲と能力を持つ人を望みます。野外での観測・調査活動、計測や計測機器開発、電子工作やソフトウェア・プログラミングなど、地球物理観測業務に応用できる経験や技術を持つ人は、その専門を問いません。

4. 応募資格：

4年制大学理工系学部卒業以上で、2年程度以上、上記の地球物理観測業務に応用できる職務経験を有すること。ただし、大学院等における研究歴は資格要件の職務経験に含まれます。平成26年3月修士課程修了見込みの方の応募も歓迎します。

※ただし、次の者は応募できません。

- 1) 成年被後見人及び被保佐人(準禁治産者を含む)
- 2) 禁錮以上の刑に処せられ、その執行を終えるまでの者、又はその刑の執行猶予の期間中の者、その他その執行を受けることがなくなるまでの者
- 3) 懲戒解雇又はこれに相当する処分を受けたことのある者で、その処分の日から2年を経過していない者
- 4) 日本国内における活動に制限のない在留資格を有

しない者

5. 応募期限：平成25年12月25日(水)正午必着

6. 採用予定時期：平成26年4月1日

7. 応募書類：

1) 履歴書(東京大学統一履歴書フォーマット)

下記URLよりダウンロードしてください。

URL : http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html

東京大学 HP > 研究者・職員公募 > 東京大学統一履歴書フォーマット

2) 小論文(書式自由)

本公募に応募した理由2,000字以内

3) 職務経歴書(書式自由)

経歴ごとに企業や大学院等の職務・研究内容を具体的に記述

*連絡に使用しますので、連絡用メールアドレスを必ず記入してください。

8. 選考方法等：

小論文及び職務経歴書等にもとづく書類選考、及び面接選考により決定します。

第一次面接試験日時等は書類選考後、1月8日以降に合格者へ個別連絡しますが、下記の日程を予定しています。

1) 第一次面接試験：平成26年1月11日(土)

2) 第二次面接試験：平成26年1月20日(月)

※適任者がいない場合、決定を保留します。

9. 勤務条件等

下記URLを参照してください。

URL : http://www.u-tokyo.ac.jp/recruit/info/kinmu_j.html

東京大学 HP > 研究者・職員公募 > 東京大学職員採用試験・国立大学法人等職員採用試験 > 働く環境 > 勤務条件・福利厚生

10. 応募書類提出先及び問合せ先

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1 東京大学地震研究所庶務チーム(人事)

電話：03-5841-5668 E-mail : jinji@eri.u-tokyo.ac.jp

応募書類は封筒に【技術職員(観測系)応募】と朱書し、書類提出先まで送付して下さい。

原則として、応募書類は返却いたしませんので、予めご了承ください。

11. 地震研究所の説明

URL : <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/laboratory/history.html>

12. 地震研究所技術部の職員からメッセージ

URL : <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/recruit/message/syoukai.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月18日送信しました)

○その他の公募

【東京大学地震研究所】

平成 26 年度共同利用の公募について

1. 公募事項（公募要領を参照）
 - (1) 共同研究
 - (2) 研究集会
 - (3) 施設・実験装置・観測機器等の利用
 - (4) データ・資料等の利用
2. 申請資格：国立大学法人，公，私立大学及び国，公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。
3. 申請方法：共同利用 HP (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>) にある「所定の様式」に必要な事項を記載のうえ申請してください。
 なお，一般共同研究，研究集会については，研究代表者が申請してください。
4. 研究期間：研究期間は，平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月までとする。
5. 審査の方針：本研究所共同利用委員会では提出された申請書を審査し採否を決定します。
 研究計画の内容が各種共同利用の趣旨に沿っていることが重要です。
 また，本研究所との研究活動の関連性や施設・装置・データとの関連性も審査の対象となります。
 なお，特定共同研究 (A) (次期の「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」(仮称) に基づいて計画的に推進する共同研究 (以下，「次期予知研究計画」) (A-01) を除く) (B) (C) に関しては，今回提出いただいた参加申請書を地震研究所が取りまとめ，研究代表者に送ります。それを受けて研究代表者によりとりまとめられた「計画調書」(12 月中旬締め切り) が審査対象となります。
6. 申請期限：平成 25 年 10 月 31 日 (木) 【厳守】
7. 承諾書の提出：上記締め切り後 2 週間以内に所属機関長等の承諾書 (様式 11) を下記住所まで郵送願います。
 (異動等があった場合は，新しい所属機関長の承諾書を速やかに再提出してください。)
 〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1
 東京大学地震研究所研究支援チーム (共同利用担当)
8. 採否の決定：共同利用の採否は，本研究所共同利用委員会が決定します。採否の決定は，平成 26 年 3 月下旬までに行われ，審査結果を課題代表者及び研究代表者あて通知します。
9. 所要経費：共同利用に必要な経費及び旅費は，予算の範囲内において地震研究所が支出します。
10. 報告書：全ての共同利用者※は，研究期間終了後 30

日以内に共同利用実施報告書を Web システムにて提出していただきます。各共同利用・研究課題に関する報告書の様式については別途お知らせします。

なお，特定共同研究 (B) については，年次ごとの報告書に加えてプロジェクト終了年度に最終研究報告書 (様式については別途お知らせします) を提出していただきます。

※ (特定共同研究の場合「課題代表者」，一般共同研究及び研究集会の場合

「研究代表者」，施設・観測機器・データ等の利用の場合「申込者」)

11. 謝辞等の記載：本研究所の共同利用で行われた研究に関する論文を発表する場合は，謝辞に地震研究所共同利用を利用した旨の文章を入れ，その別刷を提出していただきます。
12. 宿泊施設：本研究所には宿泊施設がありませんので，各自用意してください。
13. 注意事項：
 - (1) 施設等の利用にあたっては，本研究所の規程，その他関係法令を遵守するとともに，管理・安全のために発する所長の指示に従っていただきます。
 - (2) 予算の執行，研究の実施，設備の利用については，所内担当教員と十分に連絡を取り，かつ，関係する教員の指示に従ってください。
 - (3) 本学以外の共同利用者が研究を遂行する際に受けた損失，損害に関しては，原則として各所属機関で対応するものとし，本学は一切の責任を負いません。また学生が共同研究に参画される場合は，(財)日本国際教員支援協会の損害保険「学生教育研究災害障害保険 (学災教)」等に加入してください。
 - (4) 本共同利用によって知的財産を創出した場合は，出願等を行う前に対応教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて，所属機関の知財担当部署への連絡もお願いいたします。権利の持ち分，出願手続き等については協議の上，決定いたします。
 - (5) この他，公募に関するお問い合わせは研究支援チーム (共同利用担当) へお願いします。

【問い合わせ先】

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所研究支援チーム (共同利用担当)
 電話：03-5841-5710, 1769

FAX：03-5689-4467

E-mail：k-kyodoriyo@eri.u-tokyo.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 5

日送信しました)

【東京大学地震研究所】

平成 25 年度地震火山災害予防賞公募のお知らせ

1. 表彰対象者（地震研究所 地震火山災害予防賞規則 第 3 条）

次の各号のいずれかに該当する者等を地震火山災害予防賞の表彰対象とする。

受賞者の所属、身分は問わない。ただし、過去に震災予防協会賞または地震火山災害予防賞を受けたものは選考対象から除く。

一 野外観測・室内実験等における研究支援や関連する機器・処理システム等の開発によって、地震・火山研究の進展や、地震・火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。

二 災害記録や古文書の発掘・整理によって、地震・火山研究の進展や、地震・火山活動に起因する災害の予防軽減に功績のあったと認められる者。

三 その他の技術的側面で、自然災害の予防軽減及び地震工学の発展に功績のあったと認められる者。

2. 応募方法

候補者の氏名・所属・推薦理由（自薦・他薦を問わない）を A4 用紙（別紙様式）にまとめ、以下へ提出してください。提出書類は返却しません。

また応募書類に含まれる個人情報を選考及び採用以外の目的には使用しません。

3. 応募締切

平成 25 年 11 月 29 日（金）午後 5 時

4. 応募書類提出先

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所事務部庶務チーム宛

封書を用い、表に「地震火山災害予防賞応募書類」と朱書してください。

5. 表彰等

(1) 地震火山災害予防賞の表彰は、例年 1 月に実施する地震研究所職員研修会の際に行います。

(2) 受賞者には、研修会の中で特別講演（15 分程度）をお願いします。

6. 問い合わせ先

東京大学地震研究所観測開発基盤センター 小原一成

TEL : (03) 5841-8286 E-mail : obara.eri.u-tokyo.ac.jp

7. 地震火山災害予防賞及び震災予防協会賞受賞者一覧

URL : <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/jishinkazanyobosyo/>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 27 日送信しました)

【山田科学振興財団】

研究援助のご案内

援助対象 自然科学の基礎的分野に対して重要かつ独創的な研究に従事する研究者

助成金の内容 1 件 100～500 万円

総額 3000 万円（15 件程度、原則 2 年）

援助対象期間 2014 年 9 月～2016 年 3 月に行われる研究

締切日 2014 年 1 月 31 日

応募方法 援助内容および応募の詳細は山田科学振興財団のホームページ <http://www.yamadazaidan.jp/enjoy2.html> を参照してください。

応募には所属学会の推薦が必須です。上記締切日は火山学会推薦の締切日です。

応募希望者は、山田科学振興財団のホームページから推薦書用紙をダウンロードし、「学会推薦欄」を除く各欄に必要な事項を記載してください。

必要書類（推薦書と添付書類）を紙媒体と電子媒体（CD または USB メモリ）の両者で作成してください。

紙媒体の書類を火山学会宛に、電子媒体の書類を山田科学振興財団宛てにお送り下さい。

火山学会では上位 2 件を推薦します。

書類送付先

紙媒体

特定非営利活動法人 日本火山学会

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9 モンテバルデ 第 2 東大前 406 号

電子媒体（CD または USB メモリ）

公益財団法人 山田科学振興財団

〒544-8666 大阪市生野区巽西 1 丁目 8 番 1 号

電話 大阪 (06) 6758-3745 (代表)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 10 月 2 日送信しました)

【地球化学研究協会「公開講座」及び「三宅賞」受賞者記念講演のお知らせ】

1. 「土壌-河川-堆積物系での挙動：分子レベルからの理解」高橋嘉夫（広島大地球惑星システム学専攻教授）

2. 「海洋における放射性核種の拡散とその影響」

青野辰雄（放医研福島復興支援本部環境動態・影響プロジェクト サブリーダー）

3. コメント「現状における問題点と今後の課題」村松康行（学習院大学理学部教授）

三宅賞受賞記念講演「同位体顕微鏡システムの開発と

太陽系初期進化の研究」

受賞者： 塚本尚義 博士（北海道大学大学院理学研究
院自然史研究部門教授）

進歩賞受賞者による研究概要紹介

受賞者： 角野浩史 博士（東京大学大学院理学系研
究科附属地殻化学実験施設助教）

と き： 2013 年 12 月 7 日（土）午後 2 時 10 分より
と ころ： 霞が関ビル 35 階 東海大学校友会館（地下鉄
銀座線虎ノ門・千代田線霞ヶ関下車）

参加費： 賛助会員および学生は無料，一般 1,000 円（資
料代を含む），懇親会へも参加できます。

当日も受け付けますが，参加人数把握のため
t-sagi@m3.gyao.ne.jp までお知らせ下さると幸
甚です。

地球化学研究協会ホームページ：

<http://www-cc.gakushuin.ac.jp/~e881147/Geochem/>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 11 月
18 日送信しました）

○シンポジウム等のお知らせ

【平成 25 年度 東濃地科学センター 地層科学研究 情報・
意見交換会】

日時：平成 25 年 10 月 29 日（火）13：10～17：00
場所：瑞浪市地域交流センター「ときわ」（岐阜県瑞
浪市）

※定員：約 150 名

「瑞浪超深地層研究所 深度 300m 水平坑道見学会」

日時：平成 25 年 10 月 30 日（水）9：15～12：00
場所：瑞浪超深地層研究所

※定員：40 名

※いずれも，申込者が多数の場合は，先着順とさせてい
ただきます。ご了承下さい。

※入場無料（事前の申し込みが必要です。）

※締切 10 月 10 日までにお申し込み下さい。

申込先

独立行政法人 日本原子力研究開発機構
東濃地科学センター 瑞浪超深地層研究所
地層処分研究開発部門
結晶質岩工学技術開発グループ
E-メールアドレス：tono-koukankai2013@jaea.go.jp
ホームページアドレス：[http://www.jaea.go.jp/tono/
topics/topics1308_1/1308_1.html](http://www.jaea.go.jp/tono/topics/topics1308_1/1308_1.html)

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 5
日送信しました）

【火口湖シンポジウム 2013 のご案内】

2013 年 9 月 19 日（木），20 日（金）に東海大学湘南キャン
パスで火口湖シンポジウムを開催します。このシンポ
ジウムは，カメルーン火口湖プロジェクト（[http://www.
satrebs.u-tokai.ac.jp/index.html](http://www.satrebs.u-tokai.ac.jp/index.html)）の部内報告会を引き継ぐ
会議です。今回からプロジェクトメンバー以外の方のご
発表も歓迎します。火口湖に直接関係せずとも，関連周
辺分野として，水文学，火山地質学，CO₂ 地下貯留等の
研究発表も歓迎します。また外部から講師（筑波大，尾
山洋一氏）を招いてお話を聴く機会も設けました。19 日
の夕方に学内の食堂で懇親会を予定しています。まだ追
加で数件の口頭発表が可能なので，参加ご希望の方は，
大場宛にお知らせください。聴講のみの参加も歓迎しま
す。以下に発表会の概要を示します。

1. 場所：東海大学湘南キャンパス 17 号館 2 階研修室
2. 日時：9 月 19 日 9～17 時，20 日 9～15 時 19 日
夕に懇親会（有料）
3. 登録料：無料
4. 発表形態：口頭のみ
5. 使用言語：英語
6. 連絡先：東海大学理学部化学科 大場 武
takeshi_ohba@tokai-u.jp
7. 連絡先電話：0463-58-1211，090-7244-4193
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 5
日送信しました）

【第 6 回惑星科学実験実習のお知らせ】

主催・運営：地球惑星科学会 / 衝突研究会
場所，期日，テーマ：

- A：「レーザーアブレーションによる衝突蒸気の高速分
光実験」
場所：東京大学柏キャンパス
日程：2013 年 12 月 2 日-4 日
拠点協力者：関根康人
- B：「高速度での堆積岩へのクレーター形成実験」
場所：宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所
日程：2013 年 11 月 5 日-7 日
拠点協力者：長谷川直，黒澤耕介，鈴木絢子
- C：「砂へのクレーター形成実験と放出物のその場観測」
場所：神戸大学六甲台キャンパス
日程：2013 年 11 月 11 日-13 日
拠点協力者：荒川政彦，保井みなみ，中村昭子
- D：「レーザー誘起絶縁破壊分光装置（LIBS）を用いた野
外における岩石のその場測定」
場所：千葉工業大学津田沼キャンパス
日程：2013 年 11 月 27 日-29 日 or 12 月 11 日-13 日

拠点協力者：石橋 高，黒澤耕介

参加申込方法：

<http://impact-res.sakura.ne.jp/lab-training/index.html> にある申込みフォームを埋めて、contact@impact-res.org へお送り下さい。

参加申込申込締切：10月18日（金）

参加対象者：地球惑星科学を志す大学院生。

各種問い合わせ先：contact@impact-res.org

ウェブサイト：

<http://impact-res.sakura.ne.jp/lab-training/index.html>

世話人：鈴木絢子（ISAS/JAXA），中村昭子（神戸大），
荒川政彦（神戸大），杉田精司（東大），門野敏彦（産業医大），石橋 高（千葉工大 PERC）
（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月19日送信しました）

【山陰海岸ジオパーク国際学術会議「城崎会議」の御案内】

1. 名称 山陰海岸ジオパーク国際学術会議「城崎会議」
2. 会場 城崎温泉 西村屋ホテル招月庭
3. 主な日程
 - 10月26日（土） 9：00～17：20 基調講演，総合討論，ポスター発表等
18：00～ 参加者交流会
 - 27日（日） 8：30～17：15 現地見学会（城崎温泉，神鍋高原等を見学）

【基調講演・招待講演の講師としてお招きする先生】

チャラランポス・ファソウラス氏
（ギリシャ プシロリティスジオパーク）
トラン・タン・バン氏
（ベトナム ドンバン・カルスト高原ジオパーク）
中田節也氏（東京大学地震研究所）
中川和之氏（時事通信社）

4. 参加申込み方法

下記ホームページから参加申込書（チラシ裏面）をダウンロードし，必要事項をご記入の上，10月18日（金）までにFAXにてお申し込みください。

FAX 番号：06-6376-2362

（株）インターグループ内 山陰海岸ジオパーク国際学術会議「城崎会議」 受付係

参加申込書，会議の詳細はこちら

>>>> http://sanin-geo.jp/modules/geopark/index.php/kinosaki_kaigi2013.html

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月11日送信しました）

【高校生のための先進的科学技术体験合宿プログラム「ウインター・サイエンスキャンプ'13-'14」参加者募集】

開催日：2013年12月21日～2014年1月8日の期間
中の2泊3日～3泊4日

対象：高等学校，中等教育学校後期課程（4～6学年）
または高等専門学校（1～3学年）

会場：大学，公的研究機関等（11会場）

定員：受け入れ会場ごとに12～20名（計184名）

参加費：2000円（食費の一部に充当，自宅と会場間の往復交通費は自己負担）

応募締切：2013年11月8日（金）必着

主催：独立行政法人 科学技術振興機構

共催：受入実施機関

応募方法：Webより募集要項・参加申込書を入手し，必要事項を記入の上事務局宛送付

<http://www.jst.go.jp/cpse/sciencecamp/camp/>

スマートフォンサイト：

<http://www.jst.go.jp/cpse/sciencecamp/camp/sp/>

応募・問い合わせ先：サイエンスキャンプ本部事務局

（公財）日本科学技術振興財団 人財育成部内

TEL：03-3212-2454 FAX：03-3212-0014

E-mail：camp-boshu25@jsf.or.jp

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月11日送信しました）

【開催案内・火山災害の軽減の方策に関する国際ワークショップ2013】

火山災害軽減のための方策に関する国際ワークショップ

2013 一大規模噴火 富士山のその時と広域避難一

日時：平成25年11月27日（水）・11月29日（金）

Date：Nov. 27 and 29, 2013

主催：山梨県環境科学研究所・（独）防災科学技術研究所

第1部 防災科研：大規模噴火の被害実績・被害想定と避難計画

第2部 山梨環境研：想定富士山噴火と広域避難

講師：Christopher Newhall

（シンガポール地球観測研究所）

Giovanni Macedonio

（イタリア国立地球物理学火山学研究所）

Nicolas Fournier

（ニュージーランド GNSサイエンス）

Thomas Wilson

（ニュージーランド カンタベリー大学）

小山真人（静岡大学）

山里 平（気象庁）

宇津明範 (トヨタ自動車(株) 東富士研究所)
 参加申込:
 山梨県環境科学研究所
 Tel: 0555-72-6211 Fax: 0555-72-6204
 e-mail: soumu@yies.pref.yamanshi.jp
 防災科学技術研究所 e-mail: fujita@bosai.go.jp
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月5日送信しました)

【開催案内「火山災害の軽減の方策に関する国際ワークショップ2013」】
 火山災害軽減のための方策に関する国際ワークショップ2013 一大規模噴火 富士山のその時と広域避難一日時:平成25年11月27日(水)・11月29日(金)
 Date: Nov. 27 and 29, 2013
 主催:山梨県環境科学研究所・(独)防災科学技術研究所
 第1部 防災科研:大規模噴火の被害実績・被害想定と避難計画
 第2部 山梨環境研:想定富士山噴火と広域避難
 講師: Christopher Newhall
 (シンガポール地球観測研究所)
 Giovanni Macedonio
 (イタリア国立地球物理学火山学研究所)
 Nicolas Fournier
 (ニュージーランド GNSサイエンス)
 Thomas Wilson
 (ニュージーランド カンタベリー大学)
 小山真人(静岡大学)
 山里 平(気象庁)
 宇津明範(トヨタ自動車(株) 東富士研究所)

参加申込:
 山梨県環境科学研究所
 Tel: 0555-72-6211 Fax: 0555-72-6204
 e-mail: soumu@yies.pref.yamanshi.jp
 防災科学技術研究所 e-mail: fujita@bosai.go.jp
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月11日送信しました)

【地層処分の技術的信頼性に関する意見募集】
 総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術 WGでは、現段階の科学的知見に基づく地層処分の技術的信頼性について、専門家からの意見を募集しております。
 募集期間は平成25年11月5日から平成25年12月4日です。詳細は下記HPを御覧ください。
<http://www.enecho.meti.go.jp/rw/shobungijyutsu-iken.html>

問い合わせ先
 資源エネルギー庁放射性廃棄物等対策室
 地層処分の技術的信頼性に関する意見募集担当
 電話: 03-3501-1511 (内線 4781)
 E-mail: rwt-opinion@meti.go.jp
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月18日送信しました)

【第22回GSJシンポジウム開催案内】
 イベントタイトル: 第22回GSJシンポジウム「アカデミックから身近な地質情報へ」
 開催場所: AP 東京八重洲通り 11F
 開催日: 2013/11/30 13時~18時
 主催者: 産業技術総合研究所地質調査総合センター(GSJ)
 公式サイト・申込み: <https://www.gsj.jp/sympo22>
 詳細: 聴く, 見る, 触れる!最新の日本の地質を体験できる1日!!
 一般の方や地質関係のアウトリーチ活動にかかわる方などを対象にしたシンポジウムです。GSJが整備する最高品質の地質情報とそれを皆様の生活の場で使っていただくための成果を、地質情報の体験コーナーとともに楽しんでください。
 (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに11月18日送信しました)

○EPS関係
【SpringerOpenでのEPS誌論文投稿の方法などについて】
 火山学会会員の皆様
 EPS誌の完全電子出版化・完全オープンアクセス化について、準備を進めてまいりましたが、2013年7月にSpringer社との出版契約手続きが完了し、9月17日頃にSpringerOpenのEPS誌HP(以下URL)にて論文投稿受付開始となる予定です。

www.earth-planets-space.com
 SpringerOpenに投稿された論文は受理され次第すみやかに完全オープンアクセス出版されることとなります。今後は冊子体の印刷を行いません。論文投稿方法がこれまでと異なりますので、下記にご注意の上、皆様よりこれまで以上に活発な投稿を頂けますようよろしくお願いいたします。

【論文掲載料について】
 原則として、投稿論文の著者には論文掲載料をお支払いいただきます。
 論文掲載料の金額は、EPS誌を合同発行する5学会(*)

の会員・非会員によって以下のように変わります。

- ・Corresponding Author (責任著者) が会員 : 200 ユーロ
- ・Corresponding Author (責任著者) が非会員 : 600 ユーロ
- * EPS 誌を共同出版する 5 学会 : 地球電磁気・地球惑星圏学会, 日本地震学会, 日本火山学会, 日本測地学会, 日本惑星科学会

【会員価格の適用について】

(1) カバーレターへの会員情報の明記

会員条件が正しく適用されるために、投稿時のカバーレターにかならず、その論文の Corresponding Author の会員情報を記載ください。EPS 誌運営委員会が各学会事務局に会員情報を確認する方式をとります。Corresponding Author の会員情報記載は下記のテンプレートに従ってください。

 I hereby certify that the corresponding author belongs to the following society supporting the journal. Please apply the discounted article processing charge for society member authors, 200 Euros, on the manuscript.

Name : XXXX XXXX (Corresponding Author の氏名)
 Membership : Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences
 Membership Number : XXXXXXXXX (Corresponding Author の会員番号)

 投稿時に会員情報に不備があると非会員の論文掲載料が適用される可能性がありますので、ご注意ください。論文掲載料の支払いは論文が受理された直後になります。

(2) EPS 誌の Submission Code の入力

また、投稿 Web サイト上での投稿時に、論文掲載料の支払い条件を投稿者に選択していただきますが、会員料金を適用される場合は、

1. 会員としての支払い条件を選択
2. EPS 誌用 Submission Code (*) の入力を必ず行ってください。

* Submission Code は添付の EPS Flyer for Members をご覧下さい。

システムの都合上、投稿時に設定した支払い条件は投稿後に修正はできません。

投稿時に非会員とされた場合は、論文受理時に非会員価格が請求されますのでご注意ください。

* EPS 誌用 Submission Code は 5 学会共通で、かつ現時点では Springer 社は Submission Code を定期的に更新しない方針とのことですので、学会員外に漏れ

ないよう管理にご注意をお願いいたします。

(注 1) 英文契約書では会員の負担額は 200 ユーロと表記されておりますが、日本の著者の場合は一律ドルによる支払いとなります。論文投稿時に表示されるドル支払額は基本となる通貨ユーロに対して、為替レートをもとに毎週一度アップデートされます。著者に対しては、投稿時に論文投稿画面に表示されていたドル支払額が請求されます。また、請求額は論文投稿直後に著者に対してメールで通知されます。

(注 2) 論文受理時に論文掲載料の支払いを行います。クレジットカード払いと請求書による外国送金から選択できます。請求書による支払いを選択すると別途手数料として 50 ドルが必要となります。これは Springer 社との契約書に不記載事項ですが、SpringerOpen の全ジャーナルに適用されるルールであるということですので、ご理解をいただければ幸いです。

【従来システム (Editorial Manager) による投稿論文の取扱いについて】

テラ学術図書出版の EPS 誌 HP 経由で電子投稿システム“Editorial Manager”から投稿いただいた論文につきましては、10 月 31 日までに受理 (accepted) された論文までをテラ学術図書出版サイトで電子出版および冊子体出版させていただきます。

11 月 1 日以降に受理された論文については全て SpringerOpen で 2014 年 1 月以降に電子出版させていただくこととし、200 ユーロ相当の会員向け論文掲載料が適用されることとなります。カラーページチャージはカラーのページ数によらず一切発生いたしません。

投稿時点と支払い条件が変わってしまうことになりましたが、オープンアクセス出版されること、およびカラーページの制限が無くなること等を考慮いただき、今般の体制の移行にご理解いただければ幸いです。

EPS 誌運営委員
 金子・前野・嶋野

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 9 月 26 日送信しました)

○連合大会関係

【日本地球惑星連合 2014 年大会のセッション提案開始】

日本地球惑星連合 2014 年大会のセッション提案が始まりました。セッション提案締め切りは 10 月 24 日です。日本火山学会は日本地球惑星科学連合の団体会員であり、日本火山学会を提案母体としたセッション提案が可能です。その場合にはセッション提案時に以下の情報を火山学会事務局 (kazan@khaki.plala.or.jp) までご連絡

ください。

1) セッション名, 2) 提案者 (代表コンビナー), 3) 共同コンビナー予定者, 4) セッション内容の概要, 5) 他の提案母体学協会 (予定がある場合)

会員の皆さまの積極的なセッション提案をお願いいたします。

JpGU2014年大会につきましては、以下のホームページをご覧ください。

2014年連合大会：<http://www.jpгу.org/meeting/>

セッション提案受付：

http://www.jpгу.org/meeting/session_t.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月9日送信しました)

【連合代議員選挙】

日本地球惑星科学連合会員の方へ

火山学会も加盟する、日本地球惑星科学連合において、代議員選挙の投票が始まっています。

投票締め切りは10月25日です。

代議員は日本地球惑星科学連合 (以下 連合) の個人会員より選出されます。選ばれた代議員の方々はセクションプレジデントならびに理事の被選挙者となります。

代議員は団体 (学協会) 会員とともに、定時・臨時社員総会において、役員を選出や事業計画の承認を含む連合の運営に関わる諸事項についての決議を行ないます。

代議員選挙の詳細については以下のサイトをご覧ください。

<http://www.jpгу.org/news/130802daigiin-koji/>

火山学会からは、固体地球科学の区分において、井口正人理事と中田節也理事の2名を推薦しております。

投票率は下記サイトから確認できますが、未だ10%未満です。

<https://secure.jtbcom.co.jp/jpgu/election/ListElection.asp>

つきましては、日本地球惑星科学連合会員に置かれましてはふるって投票いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

投票は、以下の個人会員ログインページよりログイン後、代議員選挙投票欄「選挙投票」をクリックして行ってください。

<https://secure.jtbcom.co.jp/jpgu/>

NPO 法人 日本火山学会会長 宇都浩三

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月15日送信しました)

○秋季大会関係

【秋季大会プログラム (学術講演会) を発表します】

秋季大会のプログラムが出来ましたので公表します。講演を申し込まれた方は、以下のウェブサイトから、各自の発表日時、発表形態 (口頭・ポスター) をご確認ください。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/programAA.html>

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/programBB.html>

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/programPP.html>

間違い等ありましたら、学会事務局までお知らせください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月26日送信しました)

【日本火山学会2013年秋季大会での懇親会と昼食予約について】

火山学会2013年秋季大会実行委員会

2013年秋季学会での懇親会の事前予約を募っております。また、会場近傍には適当なコンビニやレストランが少ないので昼食を持参するか、昼食弁当の事前予約をご利用ください。事前申し込みは、下記の学会HPからお願いいたします。

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/LunchBox.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月27日送信しました)

【日本火山学会2013年秋季大会でのアルバイト募集のお知らせ】

火山学会2013年秋季大会実行委員会

日本火山学会2013年秋季大会、および関連の行事が、2013年9月28日 (土曜日)~10月1日 (火曜日)において、猪苗代町「学びいな」で行われます。この期間中に学会運営に関して手伝っていただけるアルバイトの方を、以下のように募集いたします。

アルバイトの対象：学部学生および大学院生

アルバイトの人数：若干名

アルバイトの条件：時給1000円、交通費支給なし

※アルバイト時間が半日以上になる場合は、昼食代を支給します。

アルバイト時間：9月28日午後~10月1日午後の間で、半日単位ごと。

アルバイト内容：会場準備、会場撤収、学会・懇親会受

付, 講演会場におけるタイムキーパー,
照明, マイク係など

申し込み締め切り: 9月20日(金) 17時

応募人数を超えた場合は, 原則先着順とさせていただきます。

申込・問い合わせ先: ynakamu787@gmail.com

アルバイト申し込みフォーム

-
1. 名前 (ふりがな)
 2. 所属
 3. 学年
 4. 連絡先電話番号
 5. 連絡先メールアドレス
 6. 以下のうち, 可能な時間枠 (具体的な時間は個別に依頼相談)
 - 9月28日午後 12:00- (シンポジウム支援など)
 - 9月29日午前 9:00- (講演会場支援など)
 - 9月29日午後 13:30- (学会会場支援など)
 - 9月30日午前 9:00- (講演会場支援など)
 - 9月30日 懇親会受付 17:00-
 - 10月1日午前 9:00- (講演会場支援など)
 - 10月1日午後 13:30- (会場撤収)
 7. 特があれば希望の仕事など
 8. その他

=====
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月27日送信しました)

【2013年秋季大会 公開講座の案内, 懇親会事前申込など】

秋季大会の公開講座(火山防災シンポジウムとジオパークシンポジウム)のプログラムは以下の通りです。会員の皆様もふるって参加ください。

今大会会場「学びいな」は, 猪苗代駅や中心街から距離がある(徒歩約20分)ため, 駅と会場間での無料送迎バスを準備しました。バス時刻表を学会HPに掲載しましたので, ご活用ください。

会場近傍には適当な食堂やコンビニストアが少ないので, 昼食を持参するか, 昼食弁当の事前予約をご利用ください。また, 懇親会も是非ご出席ください。懇親会会場への無料送迎バスも用意されています。

懇親会参加費: 一般5,000円(当日6,000円), 学生3,000円(当日4,000円)

昼食弁当と懇親会の事前申し込みは, 下記の学会アドレス

<http://www.kazan-g.sakura.ne.jp/doc/kazan2013/LunchBox>.

html

日本火山学会 2013年秋季大会 公開講座

○「火山防災シンポジウム」

日時: 9月28日(土曜日) 14:00-15:50

場所: 「学びいな」大研修室 参加費無料. 参加申込は不要

「磐梯山と火山観測」西村太志(東北大学教授)

「福島県における火山砂防事業について」

岡本 敦(国交省地震・火山砂防室長)

「磐梯・吾妻・安達太良火山の噴火履歴と防災対応」

中村洋一(宇都宮大学教授)

○「ジオパーク シンポジウム」

日時: 9月28日(土曜日) 16:00-17:30

場所: 「学びいな」大研修室 参加費無料. 参加申込は不要

「火山とジオパーク」中田節也(東京大学教授)

「伊豆半島ジオパーク」小山真人(静岡大学教授)

「霧島ジオパークの取り組みと2011年新燃岳噴火」

井村隆介(鹿児島大学准教授)

【T-shirts is back !!】

火山学会会員のみなさま

昨年大好評だった火山学会Tシャツが帰ってきた!!

今年は数, カラー, デザインを大幅に増やして3種類, 計100枚用意しました。

1. クラシックデザイン, 厚手のコットン

2. 混紡, おしゃれなメランジカラー

3. 奇抜なカラーが目を引く七分袖(秋の磐梯山対応女性, 子供向けも用意しています。お土産にもぜひご検討ください)

9/28から火山学会会場で販売します。

1枚1000円です。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月24日送信しました)

○「火山」58巻3号 目次

「火山」58巻3号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか, メーリングリスト限定, 著者からの一言メッセージをご覧ください。

=====
・論説 「富士山南麓における新富士火山初期の火砕流堆積物の発見とその意義」

著者: 嶋野岳人・天野恵佑・安田敦・金子隆之・米田稜・藤井敏嗣

富士山南麓で火砕流堆積物を見いだした。最大の

特徴は、堆積物を構成するスコリアの発泡が極めて良く、鮮やかな赤色を呈することである。これは既報の富士火山における火砕流堆積物にはない特徴であり、ブリーニ式噴火などの爆発的噴火との関連が示唆される。また、堆積年代は 8400-9000yBP を示し、比較的爆発的噴火が少なく、大量の溶岩の溢流により現在の富士山の火山体の大部分が形成された時期にあたることが分かった。富士山の成長期である同時期の噴火史解明には、これらの溶岩に厚く覆われた堆積物を見いだしていく必要があることを示している。

・論説 「HIRETS 法を用いた火山噴気の遠隔温度測定：薩摩硫黄島における検証」

著者：角皆 潤・小松 大祐・中川 書子

活動的な火山から放出される火山ガスの噴気温度(=大気中に噴出・急冷される直前の温度)は、その山体内で進行しているマグマ脱ガスの様式や、地下水系との接触の有無、火山活動度の現況や今後の推移などを推定する上で極めて有用であるが、直接測定は現実的ではない火山が多い。そこで著者らは、火山ガス中の水素分子(H₂)の水素安定同位体比(D/H比)が、噴気温度を反映して変化する性質に着目し、大気中に拡散した噴煙の中の水素分子のD/H比から噴気温度を求める、新しい遠隔温度測定法(HIRETS法)を開発・提案した(Tsunogai et al., 2011)。本論文では、噴

気孔に直接アクセス可能な薩摩硫黄島の硫黄岳山頂火口で、HIRETS法の検証を行うとともに、観測距離と温度測定精度の関係を検討したので、その結果について報告する。

・論説 「History of Phreatic Eruptions in the Noboribetsu Geothermal Field, Kuttara Volcano, Hokkaido, Japan」
著者：Yoshihiko GOTO, Hirota Sasaki, Yoshimasa TORIGUCHI and Akira HATAKEYAMA

北海道クッタラ火山登別地熱地域、大湯沼の北東200m地点において、トレンチ調査を行い、登別地熱地域の噴火史を解明した。トレンチ断面の層序は、12層の水蒸気噴火堆積物(厚さ3-100cm)と、それらに挟在するB-Tmテフラ、Us-bテフラからなる。

12層の水蒸気噴火堆積物は、変質したデイサイト質石質岩片と粘土質のマトリクスから構成され、サグ構造を示すことから、登別地熱地域から噴出したと考えられる。

各々の水蒸気噴火堆積物は土壌層を挟在し、12回の噴火が休止期を挟んで繰り返し起きたことを示す。登別地熱地域では、過去8500年間に12回以上の水蒸気噴火が起り、噴火の頻度は700年に1回程度であると考えられる。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに10月9日送信しました)